

ネットワーク/トランジット

ITマネジメント（内部統制）

テレワーク導入の「不可能」を「可能」にするには？

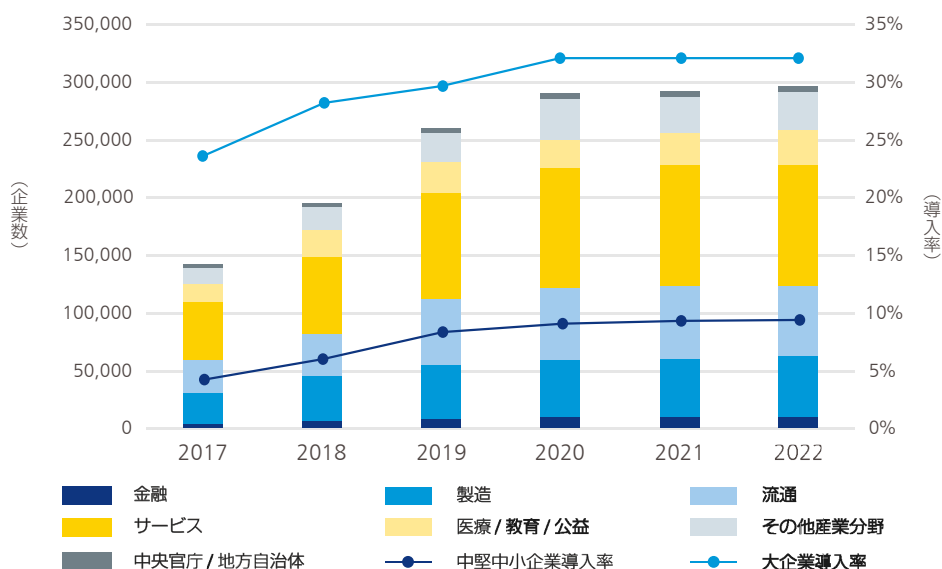
多忙なIT部門必見！ 5分でわかる導入講座

なぜ、テレワーク導入は停滞しがちなのか？

日本国内のテレワーク環境の導入状況は、大企業が23.6%であるのに対し、社員500人未満の中堅中小企業では4.7%にとどまっているという調査結果があります。この導入格差の大きな要因は3つあります。

1つ目の導入障壁は「慢性的なIT人材不足」です。情報システム担当者が1名以下、いわゆる「ひとり情シス」の企業がなんと3割を占めるという調査結果もあり、テレワークの導入に十分な人材や稼働が割けない事態を招いています。

国内におけるテレワークの導入企業数と導入率



このようなIT人材不足に加え、2つ目の導入障壁となっているのが「セキュリティ対策の煩雑化」です。今日のセキュリティ対策ではランサムウェアやフィッシング詐欺、Webサイト改ざんといった高度化するサイバー攻撃対策だけでなく、ハードウェアの紛失、設備不備による情報漏えいを防ぐ「物理的な対策」も必須です。しかしながら、セキュリティ対策をガチガチに行ってしまうと、ユーザー側の使い勝手が悪くなり、業務の生産性を低下させるなど、導入課題の見極めも重要になってきます。

そして3つ目の導入障壁は「コスト」です。端末側にデータを持たないシンクライアントは、テレワークにおける強固なセキュリティ対策を講じる代表的な手段ですが、システム構築、機器の導入にはそれなりのコスト負担を覚悟する必要があります。しかもネットワークに接続して利用することを前提としているため、外出先の通信が不安定な場合、使い勝手の低下につながります。

じつはいま、テレワーク導入の大チャンス

2020年1月14日にWindows 7の延長サポートが終了し、セキュリティ更新プログラムの提供などが受けられなくなります。企業が脆弱性や不具合などを抱えたままWindows 7を使い続けることは難しく、事実上、Windows 10に移行する以外の選択肢はないといえます。とはいえ、単純にPCを買い替えるだけでは、費用対効果の観点から「もったいない」ともいえます。では、具体的にどのような対策を講じるのがベストなのでしょうか。ポイントはWindows 10へのアップデートと併せて、働き方改革の推進に向けたテレワーク環境を導入することです。

テレワーク環境の導入は、時間や場所にとらわれない働き方を実現します。これにより在宅勤務による雇用の拡大や外回りの多い営業スタッフの業務効率化、オフィスの省スペース化によるコスト削減など、さまざまな効果を生み出します。さらに、昨今の国内で頻発している台風、豪雨といった自然災害による交通機関のマヒなど、通勤が困難な状況ではBCP対策を支えるリモートワーク環境としても機能することもポイントといえます。

まさに、いまがテレワーク環境を導入する絶好のチャンスです。しかし、IT人材の不足、セキュリティ対策の煩雑化をクリアできなければ前進はできません。こうしたお悩みを解消するサービス「テレワーク・スタートバック」が、2019年2月にNTTコミュニケーションズからリリースされました。

IT部門の稼働を激減させるパッケージサービスとは

「テレワーク・スタートバック」はテレワークに必要なノートPCの準備、モバイル通信やセキュリティの設定などをワンパッケージで提供。導入の煩雑な対応をすべてアウトソーシングできるサービスです。このサービスには、4つの特長があります。

「テレワーク・スタートバック」パッケージ内容



OCN モバイル ONE for Business 3/7GB コース



NTTコムの情報漏洩に関するノウハウが
凝縮された LTE-SIM 内蔵型ノートPC



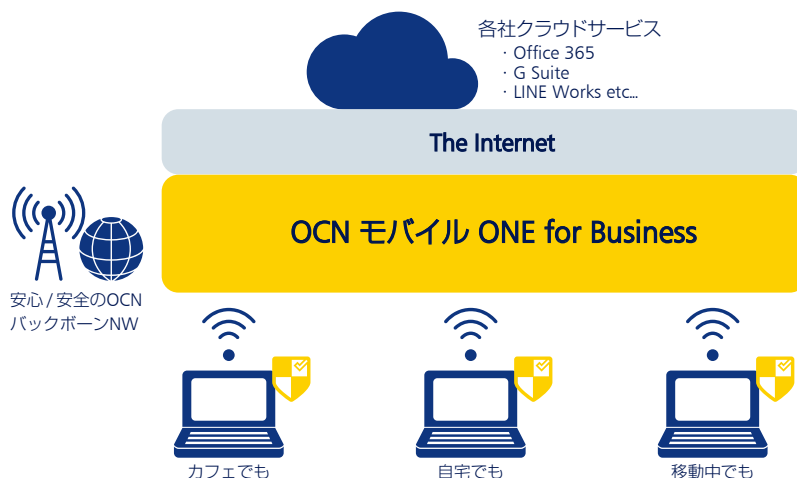
Symantec社の WSS を採用
NTTコム×NTTセキュリティ社の
ノウハウが詰まったセキュリティポリシーを策定

特徴 1

ロケーションを問わず安全にクラウドサービスを利用可能

モバイルネットワークでは法人向けサービスとして豊富な実績を持つ「OCN モバイル ONE for Business」を採用しています。Wi-Fiがない環境でもインターネットに接続してOffice 365、G Suiteといったクラウドサービスが利用できます。3GB /月コース、7GB /月コースが選択でき、3年契約で各コースに+1GBのボーナスパッケージもつきます。さらにSymantec Web Security Serviceを利用したWebフィルタリング機能を実装し、有害サイトや業務に関係ないサイトの閲覧をブロックできます。

「OCN モバイル ONE for Business」を採用



特徴 2

設定は約10分、キitting済みPCをデリバリー

モバイルPCについては指紋認証機能付きのNEC製「VersaPro UltraLite タイプVB <VB-3>」が提供されます。SIM内蔵に加え、バッテリー駆動時間は最大約16.8時間、急速充電にも対応したテレワーク仕様です。最大のポイントは、セキュリティ対策を含む初期設定があらかじめ完了された状態で手元に届くこと。電源を入れて仮設定されたID、パスワードを設定し直し、利用者の指紋を登録するといった簡単な対応だけで利用できます。1台あたり2時間程度を要する各種設定も、約10分で完了します。設定の手順書も付属しています。

NEC製 VersaPro UltraLite タイプVB <VB-3>



特徴 3

NTT Comのノウハウによるセキュリティ対策

ノートPCには総務省の定める個人情報保護法、IPAの定める情報セキュリティ 5か条のガイドラインをクリアするセキュリティ対策を実装しています。さらにNTT Comが社内で培ってきたノウハウを上乗せした対策を行っているため、安心してビジネスで利用できる必要十分な対策が講じられていると考えていいでしょう。

「テレワーク・スタートパック」セキュリティ対策

テレワークスタートパック提供セキュア PC	
ウイルス対策	ウイルス等悪意あるソフトウェアからのリアルタイム保護
	オフラインスキャンや不正ソフトウェアのクリーンアップ
	不正通信を阻止するファイアウォール機能
	システム起動時に活動するウイルス等からの保護
	ランサムウェア等からのデータ保護
	クラウドベースの保護（クラウド経由で不振ファイル判定）
	「Windows Defender セキュリティセンタ」ツールによる一括管理
盗難・紛失時の 情報漏洩対策	不正アプリやファイルからの保護（SmartScreen）
	不正プログラムの実行阻止（Exploit Protection）
	モバイル PC 内のドライブの暗号化

1台あたり10万円を切る価格、補助金の適用対象にも

3年契約が条件となるものの、税込み10万円未満で導入できることもポイントです。これはテレワークに関する多くの補助金、助成金が対象を定める端末購入価格をクリアしています。※

※ それぞれの補助金の条件によって異なります。当サービスを導入すれば支援が保障されるわけではありません。

また1台からの導入もできるため、まずは数台導入し、使い勝手確かめてみるのも一手です。将来的なテレワーク拡大の土台として、徐々にスケールアップ、バージョンアップにも対応できます。

また、「テレワーク・スタートパック」は今後、Web会議、Web電話帳といったサービスのアドオン、端末バリエーションの拡大なども予定しており、社内LAN、外出先からのWANへの閉域接続についてのオプションサービスも計画しています。※

※ 個別の対応は現在も可能です。

テレワーク環境による働き方改革の推進で将来的な企業戦略にも貢献できる「一石二鳥」のリプレイス。社内PCのキittingから運用までをアウトソーシングすることで、情報システム担当者の稼働を大幅に軽減する「テレワーク・スタートパック」をこの機会に検討してみてはいかがでしょうか。

関連サービス

テレワーク・スタートパック

設定不要ですぐにセキュアなテレワークを始められる「テレワーク・スタートパック」。テレワークに必要なノートパソコン、モバイル通信、およびセキュリティサービスをパッケージ化。事前の設定も完了した状態でお届けします。